

東アジアのリーダーシップとは

－シンガポールで考える－

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：シンガポールには何をするためにいったのですか。

A：(林明夫：以下省略)6月24、25日にシャングリアホテルで開催された東アジア経済会議(World Economic Forum on East Asia 2007)に参加するためです。主催は、毎年1月下旬にスイスのダボスで開かれるWorld Economic Forumを開催している団体です。「ダボス会議の東アジア地域版(世界経済会議)」とも言われています。テーマは「東アジアにおけるリーダーシップとは」でした。

テロや地球環境問題、都市問題、貧困問題など多くの解決すべき問題を抱えながらも躍進を深める東アジアにおいて、リーダーシップというものをどのように考えたらよいのかが、テーマに沿って議論されました。

参加者約300名、日本人参加者は、猪口邦子参議院議員、甘利明経済産業省大臣、竹中平蔵慶大教授はじめ30数名。私は、社団法人経済同友会(東京)の一員として参加させて頂きました。使用言語は基本的には英語ですが、日本の政治家が10名近く参加したこともあってか、ほとんどのセッションで日本語の同時通訳もありました。中国語の同時通訳もあったようです。

Q：林さんは、以前にもこの東アジア経済会議に参加したことがあるのですか。

A：2001年から毎年参加させて頂いています。

Q：なぜ毎年同じ会議に参加しているのですか。

A：東アジアの各界のリーダーが集い、東アジアの現状や課題を本音で率直に議論し合う会議であると感じられたからです。2～3日ではありますが、スピーカーの方を含めほとんどの方々が全日程を同じ会場で過ごし、知性と知性を磨き合っているように私には感じられ、とても勉強になります。

Q：東アジアのリーダーシップは、誰がどのようにとればよいと考えますか。

A：国レベルの話をするれば、ASEAN諸国は、中国とインドとの関係をどのように築き上げればよいかを考え、ASEAN全体として中国やインドとの経済や文化面での関係を築き上げようとしているようです。放っておけば、大国でメキメキ力をつけてきた中国やインドにアツという間に呑み込まれてしまう可能性が低くないからだと考えます。

日本には、アメリカとの同盟関係を基盤に中国やインドに負けないようなリーダーシップを発揮してもらいたいと、何人もの参加者から言われました。

Q：参加者の皆さんは、「東アジア共同体」についてどのように考えていましたか。

A：中国が主導し、アメリカの影響力を排する形での東アジア共同体には、懐疑的な方が多かったようです。ASEAN が、日本や中国、韓国との経済や文化の連携を深めることは、皆さん大賛成でした。アメリカやインド、オーストラリア、ニュージーランドとも、今まで以上に関係を深めようという意見も多かったようです。

Q：もう少し目線を落としたレベルでのリーダーシップについては、どのような議論がありましたか。

A：自治体を含めた政府や企業、大学の役割が強調されていたようです。企業に関して言えば、社会的企業(Social Enterprise)、社会的起業家(Social Entrepreneur、ソーシャル・アントレプレナー)という言葉が使われていました。NPO(Non Profit Organization 非営利組織)や NGO(Non Governmental Organization 非政府組織)の役割も強調され参加者もありましたが、今回は「社会的企業」「社会的起業家」ということが盛んに強調されたようです。

国レベルでも地方レベルでも行政では解決しにくく、また NPO、NGO 以上に起業家精神で取り組まなければならない現代的課題が、世界レベルで場化したためと考えられます。

これに加えて、若者や女性、高齢者のリーダーシップの大切さも議論されました。障害をもつ方の社会参加も強調されました。「貧困の撲滅」「地域間格差」「都市における格差」についても盛んに議論され、基礎教育の重要性、とりわけ識字能力向上のための取り組みが話し合われました。

Q：結構大切なテーマについて、熱心な議論がされているのですね。

A：はい、その通りです。

Q：学習塾や予備校、私立学校の経営者の皆様にお考え頂きたいことはありますか。

A：どのような問題も、解決するのは生身の人間ですから、一人ひとりの人間の「能力強化」が不可欠です。そのためには、基礎教育が最も重要であります。何のために自らの教育機関は存在を許されるのか、その社会的使命(mission, ミッション)を徹底的に追い求めてこそはじめて、教育の成果が期待できます。また、リーダーシップの基礎も教育と考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：6月1日に、東京青山の国連大学において「女性は格差をなくせるか」と題した読売国際アカデミア 21 が開催されました。そこで、ノーベル平和賞を受賞したバングラディシュのグラミン銀行総裁ムハマド・ユヌス氏の講演をお聴きしました。「女性は小さいお金をお貸しすると、それで借金を返済し、その後は少しずつお金を貯え、そのお金で子どもを学校に行かせる。子どもを学校に行かせると同時に、自分自身も字を覚え、実力を蓄える。」

教育とは何かを考えさせられるお話でした。

皆様はどのようにお考えですか。

— 2007年7月22日記 —